

# 第 章 2005年までに、何をすべきか

## 1. 地域づくり事業

### (1) 歴史街道モデル事業

ここ10年で、関西の各市町村の歴史地域は各段に整備されてきた。  
この点に関して、「歴史街道モデル事業」が果たしてきた功績は大である。

「モデル事業」の効果としては、

選ばれることで、特に各行政の中に燃えている人たちの仕事がやりやすくなった  
外部からの指摘で、これまで気づかなかった地域の「ネタ」に着目する人が増え、  
彼らに引っ張られる人たちが出てきた

「市町村テーマ」( 5 )の設定により、「そこにしかない街づくり」が進んだ  
国・府県・市町村、商工・交通関係者、市民など、計画策定に関わった人々の連  
携が進み、統一感がある事業推進が可能になった  
といった点が指摘されている。

観光上の効果もでてきている。

例えば、京都市内の入込客数は、ここ数年清水寺周辺地区が一位を続けている状態  
である。

1980年代後半までは、観光客の訪問割合がほぼ同等(20%前後)であった嵐  
山地区が横這い状態なのに対し、清水寺周辺地区の観光客の割合は増加傾向を示して  
いる。

また、清水地区では、1998年頃までは、他の観光地との割合が縮まりつつある  
時期もあったが、町並みを活かした「モデル整備」完成と軌を一にして、訪問割合が  
30%前後を示した。

その大きな要因は町並み整備の充実であり、より具体的には、快適に歩ける道が  
拡大したこと、魅力的な店舗が増えたこと、社寺のライトアップ事業などによる  
効果が大きかったと考えられる。

については、伝統的建造物群保存地区内で、建造部の修理又は修景を行う場合、  
それに要する費用の一部を補助する制度の存在も大きい。

小都市については、より大きな成果が出ている。

例えば1980年代後半まで、京都府北部地域の観光入込客数は、宮津市の割合が  
40%を越えていた。同市への観光客は現在までほぼ横ばい状態だが、地域への入込  
はその後、約1.5倍に増加しており、結果、宮津市のシェアは30%弱に減少した。  
特に、「モデル事業」地区の一つ、加悦町の入込客数は、道の駅や古墳公園の整備等  
により100万人弱と、第2位の舞鶴市に迫る勢いで伸びを示している。

さて、「歴史街道モデル事業」にはすでに50地区71市町村が参加しており、日本国内はもとより、世界的に見てもユニークな一大ネットワークを形成している。

この成果を順調に発展させることは、わが国における「特徴ある地域づくり」に大きな一石を投じたことにとどまらず、これからの「美しい国土づくり」の具現化にもつながっていくことだろう。

だが、依然として問題点は山積している。

宇治や彦根のように見違えるように整備された地域もあるが、各地域で目に見える「カタチ」で整備されてきたとは、まだ言えない。

地域数が増加し、相当数の割合に及ぶ主要歴史的地域がこれに取り組んでいる現状自体は望ましいが、各地域の取り組み上の温度差もはげしい。

ほぼ100%の完成を見ている地域がある一方で、財政状況の悪化により、なかなか計画内容が実現できない地域が出てきているというのも現状だ。

まず第一の問題は、策定後のフォローアップ策が乏しいことである。

これからは地域計画と一緒に作りあとは地区まかせというだけでは厳しい。

国、府県等も、もっと積極的に計画を支援し、目に見える「歴史街道」としてのカタチを作っていくといけない。

協議会はもちろん、国土交通省、近畿地方整備局、各地域の国道工事・河川事務所、各府県などに共通する課題であるが、昨今の経済情勢下では、地域の取り組みや、歴史的文化的地域・観光地域としての資質をふまえた支援地域の重点化も検討していく必要があると思われる。

今後も国土交通省ほかに支援の充実を求めることもあわせ、地域との連携を密にし、歴史街道計画の活用と地域整備のあり方について、ともに考え協力しあえる場(体制)づくりをしていくことが重要である。

またその一方では、第二には、地域の自助努力の姿勢をモデル事業認定の審査段階で判断していくような仕組みが必要であろう。

やや視点を変えて、第三には、3政令市や県庁所在地での実施事例が少数であるという点があげられる。

各府県の観光拠点となるこれらの地域においては、外国人観光客への対応等も重要な整備要素となるだろう。

第四は、「モデル事業」だけに限らないが、各地域においてまだ、発想の転換が不十分であることがあげられる。

ハード整備の場合、企画サイドが情報を入手するのは通常、相当後になってから。

場合によっては、丁寧な住民の声を聞いて計画づくりをすることの苦手なセクションのところで情報が全くストップしてしまうことがある。

これでは、住民の事業への協力は得られず、折角捻出し、投下した予算が十分な効果を生み出せない。

最後に第五は事業の中味に関する問題。

計画の主流は土木・建築に関わる事業であり、歴史文化資源の演出や「ピクチャーにしたくなるような」風景づくりに対する視点が、ほとんどの地域で欠けている。

ヨーロッパ社会は、その種の「成熟しきった中での開発」について、相当先行している。彼らにとっての歴史は文化財という以上に「経済財」である。彼らは歴史を大事にすればする程、それに価値が出ることを熟知しており、何十年か先にそれらが富を生み出すものになるという合意のもとで、地域づくりを行っている。

わが国においても、歴史的地域が遺産を食いつぶしてもやっていけるような時代はもう終わりであり、歴史的地域に住む人々は、各地の宝物をどれだけ磨くかということをより強く意識すべきである。

きれいにぞうきがけを行い、磨きをかければ、古いものの方がむしろ喜ばれることが多いはずである。

#### 参考事例

- 1．京都市伝統的建造物群保存地区補助金交付規則
- 2．大阪市内・曾根崎通における外国人対応
- 3．豊中市まちづくり支援課
- 4．「インフィオラータ」(神戸市)
- 5．北海道・恵庭市におけるガ・デンシティづくり

## (2) 市民参加と地域間交流の推進

市民参加の促進分野では、「歴史街道倶楽部」の運営ほか、11地域で「旅モニター事業」および、地元住民や来訪者によるワークショップを実施し、事業提案をおこなってきた。

インターネットによる市民参加型のまちの魅力紹介なども実施した。

まちづくりノウハウの交流の分野では、計画推進にあたり、助言や提案等を行う有識者による「ブレンチーム」結成に加え、会員団体間の交流会、研究会等を実施。

加えて、主に官公庁からの委託を受け、年間数件の調査研究事業も実施してきた。

また、2000年度には、地域の物産関係者からなる「歴史街道物産倶楽部」も発足した。

だが、それらをもって、「参加」や「交流」が十分に実現しているとは言えない。

### 「歴史街道倶楽部」

イベントの実施回数増（今期より年12回）などによる事業収入増で、人件費をのぞく収支はプラスに転じつつある。

しかしながら、会員数（6000人）は相変わらず減少傾向。

ボランティア・スタッフの導入や、2002年より国内広報部門を増員し、個人会員増加策の検討などをおこなっているが、減少傾向にはまだ歯止めがかかっていない。

### まちづくりへの市民参加

モデル計画策定の際の「旅モニター」においては、ユニークな提案が多数寄せられているが、それが採択され、実現している事例は残念ながらまだ少数にとどまっている。

以上の2事業には事務局のマンパワーの2割程度をかけており、その多くが手作業となる部分でもあるため、現状ではこれ以上の活動は困難だという面もある。

スタート時から現在までの期間で、相当に「住民参加」の重要性は強く意識されてきている所であり、協議会としてこれをモデル事業地区に止まらない活動に拡大するか、同種事業の実施については各地域に任せていくのかを見極める必要がある。

いずれにせよ、中長期的には、各地域単位の運動体が出来ていくことが理想的である。

もっと各地域に入り、頑張っている人と交わって欲しいという要望も強い。

ボランティア組織が多くある地域は活性化しているところが多く、地元がやる気になれば、成功する可能性は高い。個々の地域の人達が、地域づくりに関われるような支援をするほうが、結果を見るとより大きな効果があるという指摘もある。

「ブレンチーム」の創設により、計画に関わっていただいた有識者や地域のキーパーソンをネットワークしていく仕組みができたことは、出発点としての意義があるが、次には有望なボランティア組織との関係づくりを進めるなど、広域団体ならではの活動を見極めていくことが重要だろう。

ホームページにおける「特派員制度」など、地域の魅力を広く発信してもらう場づくりを拡大していくことも協議会の役割の一つだ。

協議会が地域間、リーダー間の交流の橋渡しを行っていくことも考えられる方向性である。新たに世界文化遺産に指定される紀伊半島地域などをモデルに、実験的事業が実施できれば理想的だろう。

## 若者対策

若い世代に向けての対策は明らかに不足している。

「歴史街道」の活動全般が、多くの人々に「おもしろい」と思ってもらえるような魅力に欠けていることも事実である。

目的を達成するための「仕掛け」に工夫が足りなかった点も否めない。

この期間中にスタートした、大学や学生との連携事業（共同シンポ、インターン受け入れ等）については、良好に推移しているが、古いもののよさに気づく若者の数は増えているし、何かをやりたいと思ってる人も大勢いる。

TV番組等とも連動させ、まずは「地元の歴史に誇りを持つ」若い人たちの予備軍をつくっていかねばいけない。

アニメによるわが街紹介コンテストなど、アイデア次第で色々な事業が可能になるはずである。

関西の小中学校との連携も不可欠だ。校外授業でのとりあげはもちろん、要望活動において、文部科学省に対し、学校教育における日本史学習のウエイトの増加を訴えていくことも必要だろう。

## 歴史街道物産倶楽部

地場産業の振興を目的にした「歴史街道物産倶楽部」には約100事業者が加盟。

人件費を含め赤字が出ない範囲で推移しているが、大きな発展にはいたっていない。

「インターネット販売」については期間中に発展的に解消したものの、物産展、「ふるさと小包」については黒字基調のメドがたってきている。

事業者のネットワークを有していることのメリットは大きく、これらを活かした連携事業の展開次第では発展の可能性はあるが、個人会員組織同様、マンパワーとの兼ね合いによっては第四期内の見直しについても選択肢に入れておく必要がある。

## 研究会、交流会

協議会内部における研究、交流については十分ではないという認識である。

もっとテーマをしぼった小規模なものなども充実したいが、会員との双方向性がまだ十分とはいえず、実施できないまま今日に至っている。

今後の方向としては、スルッとKANSAI協議会に見られる「ワ - キング」制度を取り入れるなど、抜本的改善が必要である。

## 調査研究

受託調査についての「支持率」は高くなかったが、実施については、財政確保の面からやむを得ない面がある。

観光だけではなく、様々な産業が「歴史街道ブランド」として成り立つなど、地域経済の振興につながることも重要である。「歴史街道」上で、新しいコミュニティビジネスの振興を行っていくといった視点や、PFIによる成功施設づくりの観点も加えていきたい。

## 参考事例

- 6．三重県における住民参加 - 「まちかど博物館」と「伊賀の宝物100選」
- 7．ふるさと都・夢づくり協議会
- 8．スルッとKANSAIにおける「ワ - キング」チ - ム
- 9．長浜市の「黒壁」
- 10．摩耶ケーブル&ロープウェイ山上施設

### (3) 地域整備を「点」から「線」へ

ハード面における「点」から「線」への展開では、案内表示等の面で飛鳥～奈良～京都間での取り組みがある程度に止まっている。

少なくとも中期的には現実路線に転じ、いくつかの「ルート」のみを重点的に整備していく方向を取ることが得策であると思われる。

#### 既存道路を活用した「ルート」形成地区(例)

湖岸道路：大津 - 近江八幡 - 安土 - 彦根 - 長浜（滋賀県）

国道23号・165号：伊勢 - 久居 - 室生 - 桜井 - 飛鳥（三重県・奈良県）

国道24号・169号：飛鳥 - 桜井 - 天理 - 奈良 - 宇治 - 京都（奈良県・京都府）

国道311号：田辺 - 中辺路 - 本宮

道路の歴史街道としての美装化、表示類の充実、「結界」となるゲート、モニュメント設置などを進める。

#### 古道・旧道を活用した「ル - ト」形成地区(例)

伊勢街道：伊勢 - 飛鳥

山の辺の道・山背古道：桜井 - 奈良 - 城陽

熊野古道：海南 - 田辺 - 中辺路 - 本宮・新宮・那智勝浦

竹内街道：堺 - 近つ飛鳥 - 飛鳥



「山の辺の道・山背古道」



山の辺の道

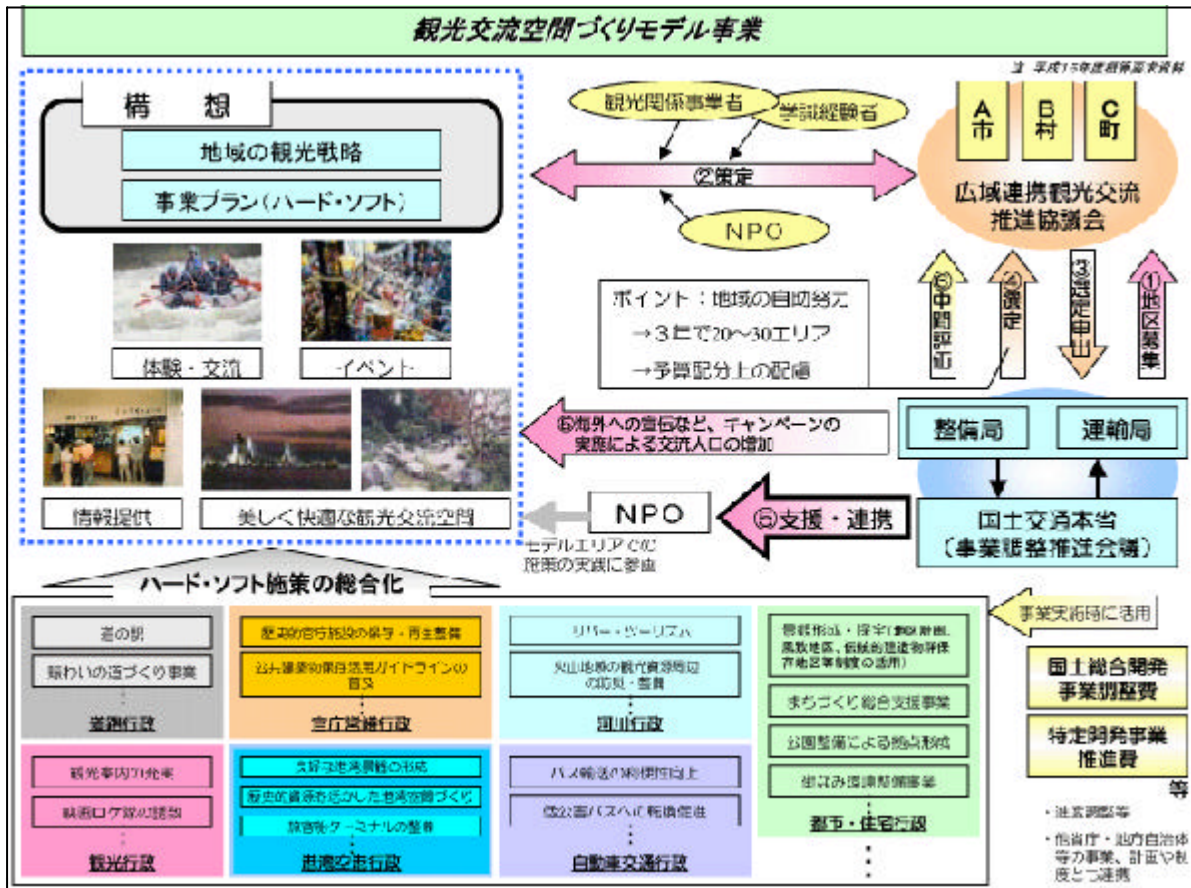


竹内街道

## 河川を活用した「ル-ト」形成地区（例）

淀川：京都 - 八幡・向日・長岡京・大山崎・枚方 - 大阪

その他の地区における「面」的連携を含め、国土交通省が計画している「観光交流空間づくりモデル事業」制度の積極的活用を検討する



## 参考事例

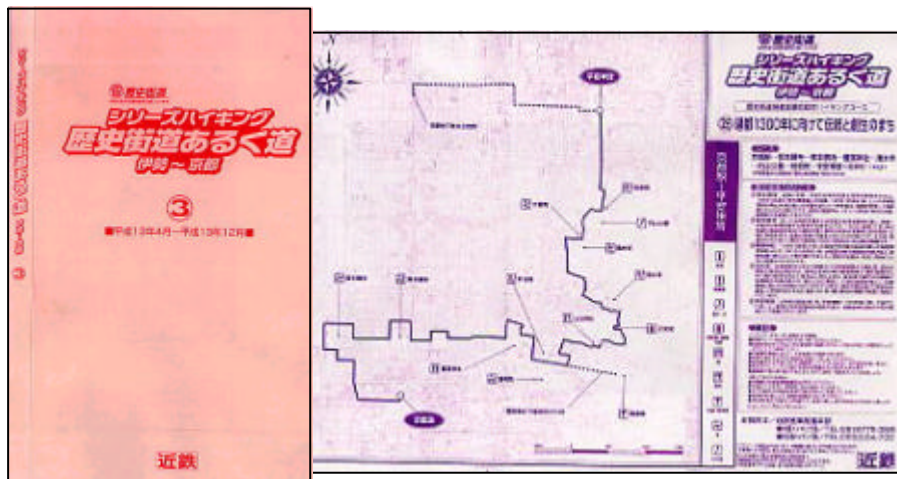
11. 四国におけるお遍路道「歴史・文化道」の整備



## 運輸機関との連携

以下のような鉄道各社との連携事業を引き続き推進していく。

- ・ 歴史街道関連イベントの実施
- ・ 他社沿線情報の相互掲出
- ・ 歴史街道鉄道カード等の発行
- ・ 特別切符等との連携
- ・ 駅スペース、車両内での歴史街道情報の発信
- ・ 車内案内の充実
- ・ 特別列車等の運行
- ・ 会員組織との共同事業
- ・ 駅とのさらなる共同事業づくり



< シリーズハイキング歴史街道あるく道：近畿日本鉄道 >



< 大阪街あそびキャンペーン：JR西日本 >

## ボランティアガイドによる定点案内

2002年度より「定点案内」実施地区を、メインルート全域（伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神戸間）に拡大した。  
今期においては、この定着化を図っていく。

## 町家店舗のネットワーク形成

2001年度に、飛鳥～奈良～京都間での町家店舗のネットワーク形成を実施した。  
今期においては、その範囲を伊勢（おはらい町）-神戸（北野異人館街）のメインルート全域に拡大していくことを検討する。

## 環境問題への視点

最後に、今後、地域整備に当たって忘れてはならないのが、環境問題に関する視点である。

日本人の歴史はまさに自然との共生の歴史と言える。

例えば奈良公園の鹿だが、あれだけ大きな動物が暮らしているのは世界中探しても奈良だけ。また、そのおかげで公園の除草費用が何千万円も助かっているなど、現代社会にも自然から得た、多くの知恵が息づいている。

しかし、一方では、多くの「歴史街道」関連地域が深刻な環境問題に直面していることも事実である。

例えば修験道場として栄え、世界遺産にも登録される大峯山脈でも、環境破壊の問題が進展。一千年以上にわたって守られてきた自然と宗教文化を次の時代に残していくという運動が始められている。

大阪湾と飛鳥を結ぶ大和川でも、多くの人々により水質改善の必要性が叫ばれている。

京都をはじめとする地域では、観光地およびその周辺で交通渋滞などの問題も発生している。

大気汚染軽減の観点からも、できる限り公共交通機関の利用を呼びかけていくことが必要だろう。

他方では、いわゆる田舎体験を通じて、地域のお年寄りと都会の子供たちのふれあいの場づくりにも取り組みたいと考える地域が増えている。

田舎の生活や雰囲気を楽しんでもらうだけでなく、地域のお年寄りとのふれあいを通して、歴史や文化、精神性にまでつなげられる手法が必要だろう。

博物館等の施設を核にしたエコミュージアム的な展開もいくつかの地域で模索されている。

世界的にも旅の関心は地方都市や田園に移っており、イタリアでは昨今、ローマ、フィレンツェばかりではなく、自然や農業を加えた小さな町が売りだしに懸命だ。

歴史的環境の保全や再生に積極的に関わりつつ、一方ではエコツーリズム、アグリツーリズムなどの要素が加えられたコースを提案していくことも、これからの協議会の重要な役割と言えるだろう。

#### 参考事例

12．奈良県榛原町における「農山村まるごとウォーク&収穫体験」

#### (4)「面」としてのネットワ - ク事業

##### 博物館との連携

博物館や資料館などとの協力関係をもう少し模索すべきである。

現状は、イベント単位での連携やオーディオ・ガイド(4言語)の実験的設置を数館で実施している程度である。

まずは学芸員との連携が不可欠である。「歴史街道」上で、新しい芸術文化の振興を行っていくためには、「歴史街道」沿いの博物館などが連携した「探索ツアー」のようなことが手がかりになる。

相互協力に、「文化施設をもっとおいしく味わうための術」を普及していかなければいけない。

学校の総合学習の導入等を契機に、博物館にもまた新たな役割が期待されているが、まずはボランティアも含めての対応を推進していかなければいけない。

地域的にはミュ - ジアムの集積地である阪神間で、兵庫・大阪両府県域をまたいで連携事業を実施できれば理想的である。

またPR面では、より広域に、府県立博物館の共通チケットを贈答用に開発するといった事業も可能かもしれない。

##### 主な博物館など文化施設

地 域	施 設 名
三重県	神宮美術館、神宮徴古館、県立斎宮歴史博物館 ...
奈良県	国立文化財研究所飛鳥資料館、県立万葉文化館、奈良国立博物館 県立橿原考古学研究所附属博物館 ...
大阪府	大阪市立歴史博物館、府立近つ飛鳥博物館、府立弥生文化博物館 ...
京都府	京都国立博物館、京都文化博物館 ...
滋賀県	県立安土城考古博物館 ...
兵庫県	県立歴史博物館、神戸市立博物館 ...
和歌山県	和歌山市立博物館、県立博物館 ...
福井県	県立博物館、県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 ...

##### 参考事例

13. 泉州ミュ - ジアムネットワ - ク

## 歴史街道 i センター

歴史街道 i センター（26箇所）、道の駅・歴史街道 i センター（14箇所）、ホテルにおける案内コーナー（23箇所）で、来訪者への情報を提供しているが、現在の機能は、あくまでもその地域の観光地を説明する点的なものにとどまっている。

「i センター」が順調に増えつつけていることは喜ばしいが、共通素材の確保、施設PRの充実、共同事業の不足などの点で多くの問題を残しているといえる。

2002年度からの「歴史街道のぼり」配布、「歴史街道二十一景」絵葉書販売など、具体的な事業アイテムを一つずつ拡大していく必要がある。

## 宿泊施設等との連携

2002年度から推奨施設づくり（外国人割引）や産経新聞全国版でのプレゼント企画などを通しての、ネットワーク再構築を始めている。

今期中にさらなる事業展開を進め、「歴史街道ホテルズ」のネットワークを確立したい。

## 市町村共同事業

市町村共同事業として、約80箇所に市町村の歴史にまつわる図柄の歴史街道スタンプを設置するなど10項目程度の事業を実施しているが、さらにテーマを活かした小連携など、新しい切り口での事業展開が必要である。

## 寺社との連携

協議会と寺社との共同事業は、これまであまり活発なものとはいえなかった。従来の良好な関係を保っていくことはもちろんだが、今後は本来の宗教活動への尊敬の念を第一義に、可能な部分からより具体的な事業展開へと踏み込んでいく。



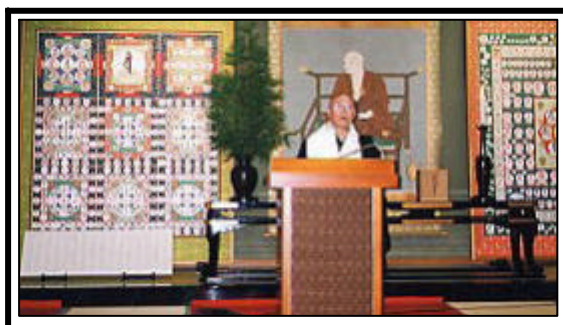
< 東京でのシンポジウム >



< 東京駅での展示 >



< 寺社との連携によるツアーの造成 >



< 金剛峯寺見学会 >



## 2 . 広報 P R 事業

### ( 1 ) 発信素材の整理

これまでの「観光」との違いは一体どこにあるのか？

従来の「歴史街道」の情報発信が、どこに何がある、といったありきたりの中味だったことは否めない。

その意味でまず必要なのは、日本人はどういう人たちなのかを知ってもらいたい、という趣旨に沿った「テキスト」のような資料であろう。

次には、知識・教養を持った人たちの欲求を満たせる、教育的で「ホンモノ」指向な中味を準備しておくことが必要であろう。

ここ最近、来訪者の知的欲求は相当専門的になってきている。

特にツアーやイベントにおいては、ありきたりな観光コースではなく、具体的に何を見るか、何に焦点をあてるか、考える場面の設定など、教育的な（自主学習的な）スタイルが求められる。

観光と教育活動は表裏一体であり、それがリピーターを生むことになると思われる。

日常的な旅においても、現地で歴史文化を勉強できる仕組みは要る。

多くの場合、地域には語り部組織等が存在し、博物館等に行けば講座があるのだから、あとは広報 P R とコーディネーターだけである。

### わかりやすく魅力を伝える

「歴史街道」計画がターゲットとすべきは、もちろん特別な歴史ファンの人たちばかりではない。

それらの人々に向けては、発信素材を適切に整理し、関心を持ってもらうための工夫が不可欠である。

第一に、それらの人々は一部の有名観光地をのぞき、各地域に何があるかについてほとんど認知できてはいない。

その意味ではまず必要なのは、それぞれの地域における「入門コース」、言い換えれば「定食」のようなものの存在である。

協議会では過去、各地や交通機関との連携で「日帰りツアー」を実施してきているが、各地での「定食」づくりの雛形となるものとしては、ひとまずはこれらのコースを日常化・簡略化した形のものが想定できる。

## 「歴史街道倶楽部」のイベント実施状況



伊勢：注連縄づくり体験



彦根：国宝の城の見学



吉野：吉水神社での講話



京都：伝統芸能の鑑賞



歴史講演会

## 歴史街道倶楽部イベント

- (1) 第1回 歴史のまちウォーク 信長ロマンのまち・安土 1994年10月29日(土)実施 84名
- (2) 第2回 歴史のまちウォーク 太子ロマン“斑鳩の里”を訪ねる 1995年5月13日(土)実施 105名
- (3) 第1回 勉強会・講演会 源氏物語のまち“宇治”を訪ねる 1995年6月24日(土)実施 172名
- (4) 第3回 歴史のまちウォーク 金剛山と楠公誕生のむら・千早赤阪村  
1995年10月21日(土)実施 183名
- (5) 第4回 歴史のまちウォーク 夢とロマンあふれる戦国の華 『世界文化遺産・姫路城』を訪ねて  
1996年5月11日(土)実施 165名
- (6) 第2回 勉強会・講演会 古代史ロマンの里“明日香村”を訪ねる 1996年6月1日(土)実施 176名
- (7) 第5回 歴史のまちウォーク～歩楽り発見～“伊勢どっぶり倶楽部” 1996年12月8日(日)実施 50名
- (8) 第6回 歴史のまちウォーク 万葉の香り立ち匂う 吉宗ロマンのまち・和歌山を訪ねて  
1997年5月24日(土)実施 86名
- (9) 第7回 歴史のまちウォーク 蓮如上人の足跡をたどる 吉崎御坊と「一筆啓上」丸岡城  
1997年9月20日(土)実施 89名



- (10) 第3回 勉強会・講演会 月明かりと古城のまち“彦根”を訪ねる 1998年3月7日(土)実施 229名
- (11) 第8回 歴史のまちウォーク デカンショのまち・丹波篠山“やすらぎの城下町”  
1998年5月23日(土)実施 183名
- (12) 第9回 歴史のまちウォーク 歴史の道・熊野古道をたずねる(中絶路~本路)  
1998年9月18日(金)~19日(土)実施 131名
- (13) 秋の特別企画 みえ歴史街道フェスタ 歴史街道・おかげ列車の旅  
1998年11月3日(祝)実施 276名
- (14) 第3回 ファン感謝のつどい「歴史街道~ロマンへの扉~」白壁と屋根瓦のまち・富田林寺内町  
1999年3月20日(土)実施 304名
- (15) 第10回 歴史のまちウォーク 桜と修験道のまち・吉野を訪ねる 1999年5月15日(土)実施 167名
- (16) 第11回 歴史のまちウォーク 沢庵とひばこのふるさと 城下町・出石  
1999年9月17日(金)~18日(土)実施 91名
- (17) 第12回 歴史のまちウォーク 黒壁と北国街道のまち・長浜 1999年11月13日(土)実施 106名
- (18) 第13回 歴史のまちウォーク 喜春城と子午線のおもまち 明石 2000年3月25日(土)実施 268名
- (19) 歴史のまちウォーク 三十石船で賑わった酒蔵のあるまち 伏見 2000年5月13日(土)実施 346名
- (20) 歴史のまちウォーク 越前戦国ルートを訪ねる旅 2000年9月13日(水)・16日(土)・22日(金)~23日(祝)実施 179名
- (21) 歴史のまちウォーク 室生寺五重塔修復記念特別企画「心の故郷 よみがえる室生寺」  
2000年11月15日(水)・18日(土)実施 240名
- (22) 歴史のまちウォーク 第11回~歩楽り発見~伊勢どっぶり倶楽部  
「燈火(ともしび)に浮かびあがる伊勢神宮コース」 2000年12月16日(土)~17日(日)実施 98名
- (23) 歴史のまちウォーク 歴史にふれる伝統的地場産業探訪の旅「紀州路・石神の観梅と熊野古道」  
2001年2月10日(土)・14日(水)・16日(金)~17日(土)実施 64名
- (24) 歴史のまちウォーク 歴史にふれる伝統的地場産業探訪の旅「西の京とがんこー徹長屋」  
2001年3月25日(日)実施 119名
- (25) 歴史のまちウォーク 伊勢街道を歩く~大神神社から長谷寺へ~ 2001年5月12日(土)実施 127名
- (26) 日本の美シリーズ【パート1】 日本美術の独自性と真の日本の美を探求  
(全4回シリーズ) 大津・京都 安土桃山・江戸時代初期  
狩野派の障壁画=山楽・光信・探幽と長谷川等伯 2001年6月6日(水)実施 85名
- (27) 会員特別企画 西安・北京世界遺産を巡る悠久の旅 2001年6月24日~28日実施 32名
- (28) 歴史のまちウォーク くらわんか舟と枚方宿のまちを訪ねる 2001年8月25日(土)・26日(日)実施 177名
- (29) 日本の美シリーズ【パート2】 京都 室町時代水墨画・枯山水と禅の精神 2001年9月8日(土)実施 77名
- (30) 会員特別企画 韓国・歴史街道ロマンへの旅5日間 2001年10月16日~20日実施 19名
- (31) 日本の美シリーズ【パート3】 京都・比叡山  
平安・鎌倉時代最澄と空海、平安浄土と鎌倉新仏教の美術 2001年11月7日実施 76名
- (32) 会員フォーラム合同企画 晩秋の琵琶湖一周・湖国の歴史を訪ねる 2001年11月16日~17日実施 45名
- (33) 歴史のまちウォーク 淡路人形浄瑠璃と潮風香る島の城下町・洲本を訪ねる 2001年12月8日実施 133名
- (34) 倶楽部・阪急電鉄共同企画 ~日本の伝統文化に触れる(京都)~  
能楽おもしろ講座と非公開文化財(三時知恩寺・光照院)を訪ねる 2002年2月16日実施 259名
- (35) 日本の美シリーズ【パート4】 奈良 飛鳥・白鳳・天平時代 古の仏像 2002年3月2日実施 77名
- (36) 歴史のまちウォーク 名張に藩邸と古墳群を訪ねて 2002年4月27日実施 105名
- (37) 歴史のまちウォーク やさしい考古学~古代への旅・飛鳥~ 2002年5月18日実施 147名
- (38) 会員特別企画 悠久の中国・夢と浪漫のシルクロードの旅 敦煌・西安6日間  
2002年5月26日~31日実施 45名
- (39) 日本の美シリーズ【パート5】 京の古寺・山の宗教美術 2002年6月19日実施 105名
- (40) 勉強会 戦国~江戸時代ゾーンを訪ねる ~大阪城と大阪歴史博物館・天守閣地下に眠る謎の石垣~  
2002年8月3日実施 260名
- (41) 日本の美シリーズ【パート6】 浄土・念仏信仰の美 2002年9月7日実施 105名
- (42) 会員フォーラム合同企画 ~信貴山朝護孫寺から高安山麓の史跡を訪ねて~  
2002年10月4日~5日実施 29名
- (43) 日本の美シリーズ【パート7】 京都五山・室町禅林の美術 2002年10月30日実施 98名
- (44) 会員特別企画 アユタヤ王朝と神秘のアンコール遺跡を訪ねて 2002年11月12日~17日実施 24名
- (45) 歴史のまちウォーク 光秀・秀吉の戦跡を訪ねる 2002年12月7日実施 209名

## 阪急フィールドセミナー

近江の典型的な都市祭礼と農村祭礼「風流の囃子物・日野祭とケンケトまつり」  
梅田 - 竜王IC - 日野町（日野祭等見学） - 竜王町（ケンケト祭り見学） - 梅田  
「あじさいまつりと揚谷寺（柳谷観音）を訪ねる」  
長岡天神 - 長岡天満宮 - 揚谷寺（あじさいまつり） - 乗願寺 - 揚谷寺  
「悲劇のヒロイン細川ガラシャと雅楽のひとつとき」  
長岡天神駅 - 神足神社 - 勝竜寺 - 勝竜寺城跡 - 石田家住宅（雅楽演奏）  
「バックステージツアー 梅田は西からやってきた」  
阪急インターナショナル - ナショナル - 新梅田シティ - 梅田貨物駅 - JR大阪駅  
- 阪急梅田駅 - 茶屋町シアタードラマシティ  
「昭和初期大阪で誕生した近代美術建築の傑作。綿業会館で奏でる」  
「城とだんじりのまち 岸和田を訪ねて」  
「モダン建築再見 - 京都・大阪・神戸・奈良」

## 近鉄観光バス（「歴史街道100選」のんびりバス&ウォーク）

### 近江八幡市・安土町

阿倍野・上本町 = あきんどの里公園 近江八幡市立資料館 八幡堀 白雲館 日牟礼八幡宮 かわらミュージアム あきんどの里  
= 安土城跡...安土城考古博物館...信長の館 = 阿倍野・上本町

### 長浜市

阿倍野・上本町 = 豊国神社...長浜城...北国街道...長浜八幡宮...黒壁ガラス館 = 阿倍野・上本町

### 彦根市

阿倍野・上本町 = 玄宮園...彦根城...彦根城博物館...夢京橋キャッスルロード = 阿倍野・上本町

### 大津市

阿倍野・上本町 = 西教寺...旧竹林院...日吉大社...日吉東照宮...慈眼寺...滋賀院門跡 = 阿倍野・上本町

### 出石町

阿倍野・上本町 = ...出石城跡...辰鼓楼...宗鏡寺...出石町史料館...見性寺...足軽長屋家老屋敷 = 阿倍野・上本町

### 神戸市

阿倍野・上本町 = 神戸海洋博物館...神戸市立博物館...旧居留地...南京町...神戸ハーバーランド...ポートタワー = 阿倍野・上本町

### 龍野市

阿倍野・上本町 = 古い商家の街並み...うすくち龍野醤油資料館...龍野城...聚遠亭...童謡の小径... = 阿倍野・上本町

### 明石市

阿倍野・上本町 = 明石市立文化博物館...明石城跡（明石公園）...朝顔光明寺 = 明石市立天文科学館...月照寺 = 阿倍野・上本町

### 篠山市

阿倍野・上本町 = 小林家長屋門...お徒士町武家屋敷群...篠山城跡...河原町妻入商家群...能楽資料館...王寺山稲荷 = 阿倍野・上本町

### 柏原町

阿倍野・上本町 = 柏原藩陣屋跡...歴史民族資料館...織田家廟所...織田神社...太鼓やぐら...八幡神社... = 阿倍野・上本町

### 洲本市

阿倍野・上本町 = 洲本八幡神社...淡路文化資料館...淡路城跡 = 巖島神社...寺町筋 = 御食国...アルファピア = 阿倍野・上本町

### 姫路市・加西市

阿倍野・上本町 = 姫路城...好古園...姫路文学館...書写山円教寺 = 酒見寺...住吉神社...五百羅漢 = 阿倍野・上本町

### 生野町

阿倍野・上本町 = 史跡生野銀山 = 生野書院 = 生野義拳跡...延応寺...銀山湖 = 阿倍野・上本町

### 御津町

阿倍野・上本町 = 室津海駅館...室津民俗館...賀茂神社...浄運寺...貝掘の井戸 = 世界の梅公園 = 阿倍野・上本町

### 和田山町

阿倍野・上本町 = 竹田城跡...城下町（寺町通り） = 郷土資料館 = 阿倍野・上本町

### 金津町

阿倍野・上本町 = 千束の一里塚...細呂木閘所跡...吉崎資料館...西本願寺別院...蓮如像 = 阿倍野・上本町

### 南条町・今庄町

阿倍野・上本町 = 杣山城跡 = 一の城戸...二の城戸...東・西御殿跡...本丸櫓跡 = 北国街道...蓮如窟 = 阿倍野・上本町

### 福井市

阿倍野・上本町 = 一乗谷朝倉氏遺跡資料館...唐門...一乗谷朝倉氏遺跡...湯殿跡庭園...諏訪館跡庭園...復元武家屋敷 =

阿倍野・上本町

### 橋本市

阿倍野・上本町 = ...万葉歌碑...隅田神社...利生護国寺...応冥寺...陵山古墳 = 阿倍野・上本町

## 高野町

阿倍野・上本町 = 大門...壇上伽藍...霊宝館...金剛峯寺...女人堂...苺萱堂...高野奥の院 = 阿倍野・上本町

## かつらぎ町・九度山町

阿倍野・上本町 = 丹生酒殿神社...丹生都比売神社...天野の里 = 紙遊苑...勝利寺...慈尊院...真田庵 = 阿倍野・上本町

## 加悦町

阿倍野・上本町 = 八幡神社...はにわロード...加悦町古墳公園...大虫神社 = 阿倍野・上本町

## 大江町

阿倍野・上本町 = 元伊勢外宮 = 日本の鬼の交流・博物館...酒吞童子の里散策 = 元伊勢内宮...天岩戸神社 = 鬼瓦公園 =

阿倍野・上本町

## 長岡京市・大山崎町

阿倍野・上本町 = 光明寺...乙訓寺...長岡天満宮 = 大山崎歴史資料館...離宮八幡宮...宝積寺...天王山...アサヒビール大山崎美術館

= 阿倍野・上本町

## 亀岡市

阿倍野・上本町 = 穴太寺 = 亀山城跡 = 神応寺...愛宕神社...養仙寺丹波国分寺跡...蔵宝寺...金光寺...出雲大神宮 = 阿倍野・上本町

## 八幡市・枚方市

阿倍野・上本町 = 鍵屋...枚方宿名残の家並み...淀川資料館...百済寺跡 = 交野天神社...和気神社...石清水八幡宮...善法律寺

= 阿倍野・上本町

## 峰山町

阿倍野・上本町 = 震災記念館...峰山四寺...峰山城跡...金刀比羅神社 = 阿倍野・上本町

## 園部町

阿倍野・上本町 = 徳雲寺 = 園部城址...生身天満宮 = 九品寺 = 大山祇神社 = るり溪谷 = 阿倍野・上本町

## 宇治市

阿倍野・上本町 = 宇治橋...橋姫神社...県神社...平等院...宇治神社...三室戸寺 = 阿倍野・上本町

## 美杉村

阿倍野・上本町 = 国津神社 = 三多気の桜 = 北畠氏館跡庭園...美杉ふるさと資料館...霧山城蹟 = 阿倍野・上本町

## 十津川村

阿倍野・上本町 = 谷瀬の吊り橋...黒木御所跡碑 = 十津川村歴史民族資料館 = 玉置神社 = 阿倍野・上本町

## 天川村

阿倍野・上本町 = 龍泉寺...面不動鍾乳洞...かりがね橋...洞川エコミュージアム...ごろごろ水...母公堂 = 天河大弁財天社

= 阿倍野・上本町



## 三重交通（三交カルチャーウォーク 歴史街道）

室生村コース： - 道の駅・宇陀路室生 - 室生...室生寺 - (室生龍穴神社)...室生寺 -

榛原町コース： - 榛原町玉立...鳥見山公園...総合運動公園 -

明日香村コース： - 甘樫丘...水落遺跡...飛鳥寺...岡寺...石舞台古墳...橋寺...高松塚古墳  
...飛鳥歴史公園館 -

橿原市コース： - 奈良国立文化財研究所...藤原京跡...本薬師寺跡...橿原考古学博物館...橿原神宮 -

桜井市コース： - 長岳寺...景行天皇陵...松原神社...大神神社 -

天理市コース： - 石上神宮...衾田陵...中山大塚古墳...長岳寺 -

斑鳩町コース： - 法輪寺...法起寺...上宮遺跡公園...中宮寺...法隆寺 -

奈良市大和コース： - 高畑...十輪院...奈良町物語館...興福寺...東大寺 -

奈良市万葉コース： - 平城宮跡...海龍王寺...法華寺...平城宮跡...遺構展示館...

奈良市シルクロード博記念館...唐招提寺 -

第二に、これからは「歴史街道」をいくつかの「ツアーコース」や「ネットワーク」に因数分解していく試みも不可欠である。

例えば京阪神の人々が福井県を2泊3日で楽しむには、どのようなコースが最大公約数的にお奨めなのか。

「日本をつくった50人」ゆかりの場所を旅するには、どうすればいいのか。

「歴史街道」の過去の活動では、それらがあまり上手く示されてこなかったように思える。

「メインルート」にしても、それを端から端までまわってみたいという人は稀であり、「ゾーン」単位でグルーピングが必要である。

協議会では2001年度に、飛鳥～奈良～京都間において各種の「ツアー」を実施、2002年度からは、シリーズ化の取り組みとして「六都再見 スタディーツアー」を開始したが、現状のままでは定着性に課題がある。

第四期においては、これらの「コース」の新設と定着化を図り、その総体として「歴史街道」を表現できる体制に持っていきたい。

地域性重視のもの以外にも、先に挙げた「人物」や「和歌」、京料理から明石焼、山田錦まで物産の「21ブランド」や食文化をシリーズで楽しむ旅などが考えられるだろう。

## 「飛鳥～奈良～京都間」のモデルツアーコース

「歴史街道をめぐる旅 源氏物語から万葉へ」

京都駅 - 宇治...源氏物語ミュージアム...源氏物語散策の道...対鳳庵...平等院... - 平城宮跡 - ならまち(奈良泊) - 西の京...薬師寺 - 法隆寺 - 万葉文化館 - 石舞台古墳 - 橿原神宮前駅

仏教美術の旅

大阪 - 斑鳩(法隆寺) - 東大寺 - 宇治(平等院・源氏物語散策の道・対鳳庵) - 大阪

奈良阪から恭仁京へ

奈良公園...東大寺境内跡・戒壇院...転害門...夕日地藏...般若寺...奈良豆彦神社 - 岩船寺...石仏めぐり...浄瑠璃寺 - 恭仁京

伊勢街道を歩く 大神神社から長谷寺へ

桜井駅...大神神社...平等寺...金屋石仏...海柘榴市観音堂...仏教伝来の碑...春日神社...白山神社...十二柱神社...長谷寺

日本の美シリーズ : 狩野派障壁画 = 山楽・光信・探幽と長谷川等伯

園城寺 - 智積院 - 豊国神社 - 方広寺 - 二条城

日本の美シリーズ : 水墨画・枯山水と禅の精神

妙心寺 - 退蔵院 - 龍安寺 - 大徳寺 - 船岡山(国見の丘) - 銀閣寺

日本の美シリーズ : 平安浄土と鎌倉新仏教の美術

東寺 - 平等院 - 比叡山延暦寺 - 三十三間堂 - 蓮華王院

日本の美シリーズ : 古の仏像 法隆寺 - 薬師寺 - 喜光寺 - 東大寺

西の京とがんこ一徹長屋(歴史にふれる伝統的地場産業探訪の旅)

菅原神社 - 喜光寺 - 垂仁天皇陵 - 唐招提寺 - 薬師寺 - がんこ一徹長屋

太子口マン"斑鳩の里"を訪ねる 法隆寺iセンター - 法隆寺 - 法起寺 - 法輪寺 - 中宮寺

社の社と名水・京都 伏見稲荷大社 - 藤森神社 - 御香宮神社 - 八坂神社 - 梨木神社 - 松尾大社

宇治の女君たち・宇治

源氏物語ミュージアム - 宇治橋 - 橋姫神社 - 平等院 - 蜻蛉石 - 彼方神社 - 橋寺 - 放生院 - 宇治上神社 - 三室戸寺

古代史口マンの里 "明日香村"を訪ねる

国営飛鳥歴史公園館 - 高松塚古墳 - 鬼の雪隠 - 俎 - 亀石 - 石舞台古墳 - 伝板蓋宮跡 - 飛鳥寺 - 甘樫丘

山の辺の道と飛鳥ハイキング

山の辺の道 - 石上神宮 - 長岳寺 - 崇神天皇陵 - 松原神社 - 談山神社 - 岡寺 - 橋寺 - 水落遺跡

三十石船で賑わった酒蔵のあるまち伏見

酒蔵と菜の花(松本酒造) - 角倉了以の石碑 - 寺田屋 - 市電発祥の地 - 油懸地藏尊 - 御香宮神社 - 伏見鳥羽の戦い弾痕(魚三樓)

- 月桂冠大倉記念館 - 十石舟

## < 歴史街道物産倶楽部 21 のブランド >



第三に、個々の魅力を打ち出して、面白そうだから遠くても行こうかと思わせるような仕掛けが必要である。

例えばホテル浦島は陸続きであるにもかかわらず、わざわざ利用者を船に乗せホテルまで運んでいる。「定食」には多少の「ミーハー的部分」が必要であり、「ツアーコース」にも「メジャー」と「マイナー」の程良い配分が要る。

さて、当然のことながら、この点において最も注力すべきは、各地の祭事や良質なイベントを組み合わせた情報発信であろう。

祇園祭から難波し、だんじり、河内の盆踊りまで。

関西を代表する祭事や桜、紅葉などの風物を21種類くらいにしぼり、「歳時記」としてPRしていくことが考えられるほか、例えば、各地の祭事やイベント時期とあわせ、年12～52回、それぞれの地域「定食」コースを巡る「わがまち体験ツアー」のようなものも考えられる。

各地でのユニークな催しをリレー形式で紹介し、育成していく視点も重要になるだろう。

### 参考事例

14. かぎろひを魅せる会
15. 奈良における夜の演出
16. 歴史街道100キロマラソン
17. 東海道400年記念事業

最後に、当然のことながら重要になるのは、マーケティングとプロモーションの視点である。

たとえどんなに素晴らしい観光対象があったとしても、消費者がそこに観光対象として存在していることを知らされていなければ、決して来訪には結びつかない。

観光対象についても、一般の商品同様、「認知 選択 利用」を促すことが重要であり、消費者に来訪してもらうためには、コンセプトを明確にし、いかに効果的な伝達をするかが鍵になる。

情報発信については、内容が盛りだくさんすぎたり、難解すぎるのはよくない。

初めから歴史文化への関心がある人への情報提供は別バージョンでやれば良いが、そうでない人の目を引くためには、切り口と味付けも必要である。

関西での観光議論には、マーケットに近い所の話にもかかわらず「誰が」「誰に」「どんな」情報を「どういう方法」でPRするかというマーケティングの観点が、薄弱であった。

また、「歴史街道」でもプロモーションは行っているが、過去においては対象と素材の選択の概念が不明確であり、一方的な行動に終わっていた。

例えば、A市を関西圏で売る場合は一般の50歳代女性に直接訴求すべきだが、首都圏では旅行会社にアピールした方が効果的である、一方B町は、もっぱら神戸・大阪に住む歴史ファン中心に情報を流そう、といったことである。

そういった戦術面について、より突っ込んだ議論をしていかなければならない。

## 参考事例

### 18. 彦根36時間計画

## ( 2 ) 国内への広報 P R

媒体ごとに「紙」「電波」「電子」、そして「人」の順番に記していく。

まずは「紙」媒体であるが、協議会では各種の関連パンフレットを年間50万部程度作成している。

出版については、公認ガイドブック「歴史街道を行く」など10種類程度。月刊「歴史街道」の発行部数は、毎月16万部。

依然として、計画そのものに関する広報は不足している。

当計画書の概要版パンフレットを作成するなど、プレスリリース(年間16回程度)方法の改善、パンフレットの大幅改訂に取り組む一方、堺屋太一理事らによる「テキスト」兼計画紹介書籍を期内のできるだけ早い時期に実現させたい。

鉄道各社との連携による中吊り広告、ポスター掲出等にも第四期から積極的に取り組みたい。

また、関西圏外における新聞折り込み広告などの事業についても、実験的に実施してみたい。

次に「電波」であるが、朝日放送「歴史街道～ロマンへの扉～」については、近くハイビジョン化が実現する。

また、同番組の放映回数は近く2500回を迎え、わが国の歴史文化映像としても有数のコンテンツとなっている。

現状のソフトの再活用は駅スクリーンでの放映やビデオ化などだが、DVD、携帯端末における活用などについても積極的に検討していきたい。

インターネット事業については、第三期の最重点事業の一つとして2001年度、言語数を10に拡大して「いんぱく」に出展。引き続き2002年6月に大幅なりリニューアルを加え、一定の基礎ができた。

今後はブロードバンド時代への対応や、テレビ番組との連動などを視野に入れていきたい。

「人」に訴求する事業の第一は展示やシンポジウム等の活動である。

展示については、東京駅などにおいて年間数回実施しているが、今後は「歴史街道二十一景」を活用した空港、国際会議場などでの常設展示にも力を入れていきたい。

関西圏内におけるシンポジウムについては新聞社や大学との連携をさらに進めていくほか、各地域と連携して連続性のあるフォーラムや講演会の実施についても考えたい。

首都圏におけるシンポジウムは当面、従来通りメディアや旅行関係者を主対象に実施していく以外の方法はないだろう。

宗教関係者や地域の語り部に話してもらう機会を作るなど、内容にさらに工夫を加えたい。

第二は「人」のネットワーク形成である。

これまでも出版社訪問やプレスツアーなどの事業を実施しているが、首都圏でのメディア人脈づくりはきわめて重要であり、中期的課題としてあげられるのは東京事務所の設置である。

他の広域団体、経済団体はもとより、鉄道各社や自治体の東京事務所との連携により、関西圏外などで活躍する関西関係者をネットワークしていくような動きにも取り組んでいく必要がある。

加えて、歴史文化に興味を持つ人々のネットワークにも取り組みたい。

特に重要なのは鉄道・旅行各社の会員組織との連携であり、積極的な共同事業を提案していきたい。

首都圏からの来訪者促進は、来秋からの「のぞみ」大增発が大きなチャンスとなる。

歴史的人物を含む、発信力のある人を通しての広報PR（例：各地ゆかりの著名人との連携、ゾーン単位で歴史的人物を打ち立てテーマを売り出すなど）、国内他地域との連携（遍路文化をテーマにした四国歴史文化道との連携、準会員制度の活用、関西圏外の主要歴史都市との共同事業展開、「本家」として各地の「歴史街道ジュニア版」に過去の成果をおすそ分けしていくことなど）についても検討課題としていきたい。

## 参考事例

### 18. 「京都館」(赤坂)の活動



### ( 3 ) 海外への広報 P R

今期、「歴史街道計画」の3つの目標の中で最も重視すべきは「日本文化の発信」であり、これに重点をおくことにより、他の2項目を牽引するパワーが生じてくる。

#### 基本的活動の再構築

従来の活動では最も基礎的な部分、すなわち大阪国際会議場との連携による日本来訪者への P R や、各主要箇所への外国語パンフレットの設置などの面で、未着手の部分があった。

まずはこれらを正したい。

#### 海外フォーラム等

海外のメディア、旅行業関係者を対象に実施してきた「海外フォーラム」はすでに43回を数え、その参加者は約4000名。歴史街道の情報を適宜発信してきたほか、取材やツアー造成の要請に適宜対応してきた。

2002年度より、小人数化、ビジネス指向の方向を打ち出しており、その発展のためには当然のことながら、パートナーの存在や協議会として採算の取れる受け入れ体制づくりが重要となる。

当面、想定されるパートナーは「スルッとKANSAI」「Jスルーカード」「航空会社」「旅行会社」「特定ホテル」「ジャパニーズ・イン」「USJ」などであり、メインターゲットは中国と米国である。

関空会社の誘致活動との協調、関西広域連携協議会との役割分担などについても、引き続き重要な要素といえる。

国内他地域（例：東京、沖縄、北海道）との連携、韓国との連携、日本を代表する歴史ネットワークとして、海外他地域との関係づくりなどについても機会があれば踏み込んでいくほか、2005年開港予定の中部国際空港とも良好な関係を構築したい。

#### 東アジア対策

2001年度に北京連絡所を設置。旅行関係の人脈構築、マスメディアの受け入れ、日本旅行展への出展などの事業を実施してきた。

情勢次第ではあるが、中期的には旅行業登録を行い、実際のツアー受け入れを実施できる体制を作れることが理想である。

## その他

広報面では、各地に設立され始めている「フィルムコミッション」との連携体制づくり、バーターによる海外観光地との相互PRなどについてもトライしていく。

世界的に見て、歴史遺産はうまく演出、情報化された時にディステーションになっている。

その意味ではまず取り組みたいのは、祭事情報の発信である。

「歴史街道二十一景」については、JNTOなど、海外機関の活用や空港、国際会議場での常設展示にトライしていくほか、絵葉書等の商品開発についても取り組んでいく。

外国人の受け入れ体制づくりについては、第三期事業の成果を着実に継続したい。

国において観光に関する予算の増大の兆しが見えはじめた。さらに、積極的な提案と、その有効な活用を試みたい。

### 参考事例

20．ドイツロマンチック街道の海外広報

21．姫路フィルムコミッション

22．兵庫県における外客対策について

### 3 . テ - マ ル - ト の 見 直 し

歴史街道の「ルート」中、特に「テーマルート」は地域の取り組みにもかなりのバラつきがあり、このままの発展は、かなり難しいものがある。

全体と各地域にとって、よりよい発展方向があるなら、見直しを試みてみるべきだ。

協議会にとっての、第一の問題は「メインルート」のコンセプトが霞んできているということである。

「メインルート」あつての「歴史街道」であり、現状ではその部分があまりにも際立っていない。

多くの人にとっては「あとヒト押し」となる情報が必要で、しかもその中には、各人にとっての「使用価値」が説明されてないといけませんが、現状の「歴史街道」全体図は単に実態のない「ルート」を組み合わせているにすぎない。

大変わかりにくく、特にその内容が「広域圏構想」に近いものであるため、旅行者や関西圏外の第三者に対して、あまりにも不親切であり、訴求力に欠ける。

第二には、現状のテーマルートが各府県の特徴を必ずしもうまく浮き立たせるに至っておらず、また、各地域がかかえる問題を解消し、うまくニーズを満たすようなものになってはいないことがあげられる。

例えば、福井県、滋賀県などについては、その魅力を「歴史文化」だけで表現するのは困難であり、ただ2県をつなげるだけのテーマやルート設定では、地域の良さを表しきれないと思われる。

また紀伊半島においては、「紀伊半島の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されることに伴い、現状のままでは「指定地」と、和歌山・三重・奈良の3ルートが並立してしまうことになる。

同じ地域を対象に2種類のPRが別々に行なわれることは、あまりにもナンセンスといえる。

第三には、現状のテーマルートが、旅行者のニーズをあまり捉えてはいないことがあげられる。

旅行者は特に県境を意識して旅する訳ではない。

兵庫北部と京都北部など、府県境をまたぐゾーン設定に価値が出る所は是非そうすべきであるし、古代史ゾーンと大阪南部、戦国・江戸時代ゾーンと滋賀、姫路などはもっと連携して事業化していく方がよい。

また、京阪神から目と鼻の先にある、大阪南部ルートや明石、亀岡、大津については、むしろ三大都市の近郊地としてアピールしていく方がよい。

利用者にとって重要なことは、例えば隣接したAとBの街に行けばどういう楽しみができるかということであって、同様にもっと「OとPならこう」、「YとZならこう」といった具体的で多様な選択肢を示していくべきである。隣接する地域間での交流や、同一のテーマを持つ地域間の多様な連携についても促進していけるような方向性が必要である。

第四の問題は、各府県におけるテーマルートの位置づけや取り組みの問題である。  
 テーマルートを活用した府県事業、地域連携事業は現時点で皆無であり、今後も実施される見込みは薄い。

また、ルートによっては市町村参加も少なく、その体を全くなしていないものもある。

### 歴史街道推進協議会会員地域の分類

	古代中リ-ン	奈良時代リ-ン	平安 室町時代 リ-ン	戦国 江戸時代 リ-ン	近代 リ-ン
三重県 奈良県	伊勢 名張 ・室生 曾爾 ・大宇陀 榛原 飛鳥 橿原 山の辺の道 斑鳩 香芝		美杉 吉野 天川 十津川 大塔 野迫川 西吉野	・上野 ・五條	
		・大和郡山 平城京跡 ・奈良公園 西の京 奈良町、高畑			
京都府	・加悦 峰山 ・大江 野田川 ・大宮 久美浜 ・丹後 弥栄 網野	・木津 城陽 ・山城 井手 ・加茂	京田辺 宇治 宇治田原 東山 岡崎 京都御苑 大原 きぬかけの路 嵐山 八幡	・丹波 ・園部 ・亀岡  ・伏見 二条城 ・向日 長岡京 天王山	
大阪府	・堺 ・羽曳野	・河内長野	千早赤阪 富田林	・枚方 高槻 大阪城 道頓堀、 文楽劇場 ・豊中 ・八尾 岸和田	中之島 箕面 池田
兵庫県	・中 ・加西			・姫路 生野 ・篠山 柏原 ・出石 洲本 ・龍野 御津 ・三木 尼崎 ・和田山	宝塚 川西 有馬温泉 北野異人館 神戸港
滋賀県			大津	・近江八幡 ・安土 土山 ・彦根 長浜 ・木之本	
福井県			永平寺 敦賀	・今庄 南条 ・福井 丸岡	
和歌山県			高野 かつらぎ 九度山 橋本 那智勝浦 本宮 新宮 田辺 土富田 海南	・和歌山	

□ :メインルート

□ :メインルートの2箇所

見直しについては、第四期の期間中にいくつかの事業展開を行う中で実施して行くことが現実的と考えられるが、その方向としては例えば、

福井県：恐竜博物館やグルメ、スキー、温泉＋歴史がある独立ゾーンとして、主に京阪神向けPRを検討する。

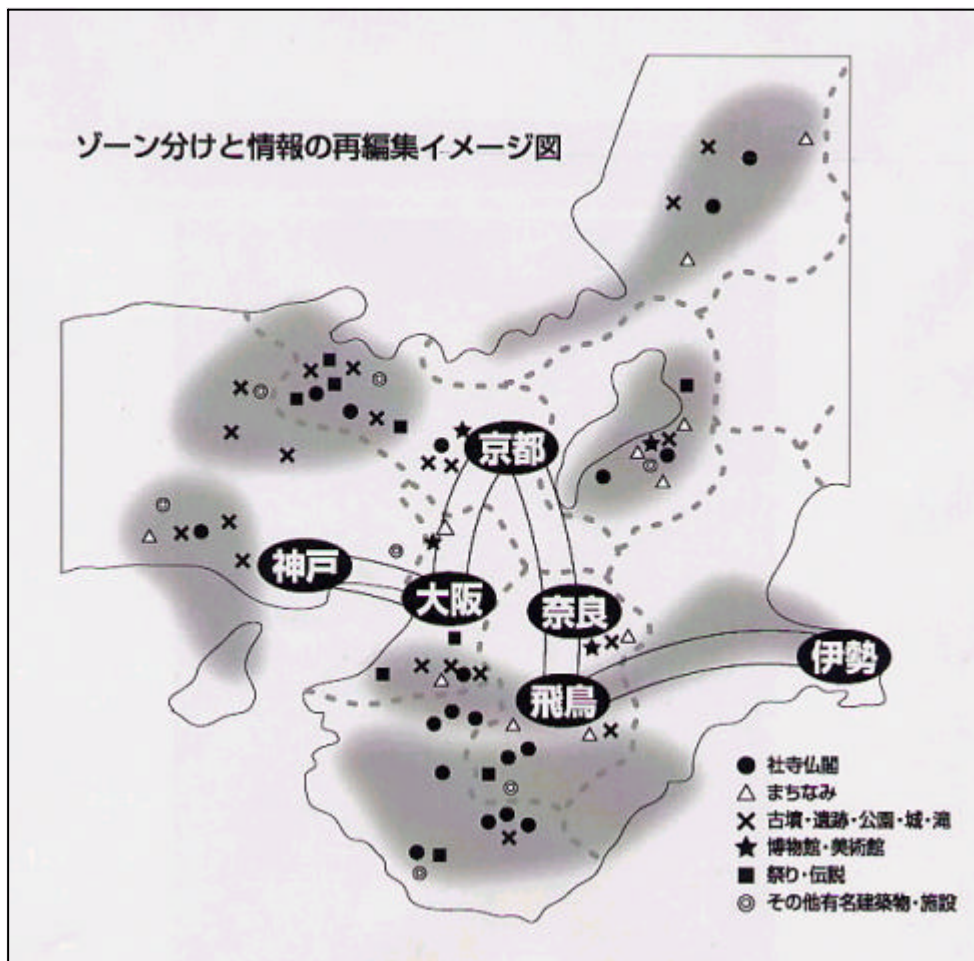
滋賀県：東部を琵琶湖、琵琶湖博物館、環境問題＋歴史があるゾーンとして、湖岸道路を活用したルート形成を検討する。

和歌山＋三重南部＋奈良南部：「世界文化遺産」PRについての共同歩調を検討する。

京都北部＋兵庫北部：丹後丹波但馬の連携を検討する。テーマとしては「伝説」。近郊地間の連携

- ・神戸＋淡路
- ・大阪＋南大阪
- ・京都＋大津、亀岡
- ・播磨
- ・奈良市＋いづみ路

といったようなネットワ－クが考えられる。



また、ドイツでは最近、「街道」ばかりではなく、「古都12選」を始めとする「ネットワーク」的PRに力が入れている。

特定のテーマを持った連携についても、「テーマルート」の見直しとあわせ積極的に推進していくべきである。

大まかには、例えば以下のような形である。

#### 伝説

- ・伊勢、榛原、熊野三山
- ・加悦、峰山、野田川、大宮、久美浜、丹後、弥栄、網野、出石

#### 古代史

- ・大宇陀、明日香、桜井、天理、橿原、斑鳩、田原本
- ・大阪、堺、羽曳野、八尾、香芝

#### 飛鳥～奈良～京都

- ・明日香、桜井、天理、橿原、斑鳩、大和郡山、奈良、木津、城陽、山城、井手、宇治、京田辺、八幡、京都

#### 戦国時代

- ・京都、長岡京、高槻、大阪
- ・木之本、長浜、彦根、安土、南条、福井、丸岡
- ・和田山、園部、亀岡、
- ・姫路
- ・岸和田、和歌山
- ・上野

#### 街道・町並み

- ・おはらいまち、美杉、橿原、奈良町、東山、嵐山・嵯峨野、洛中、伏見、枚方、向日、伊丹、豊中、富田林
- ・近江八幡、大津、土山、今庄、金津
- ・篠山、柏原、御津、龍野、三木
- ・五條

#### 近代遺産

京都、大阪、池田、川西、宝塚、西宮、神戸、洲本、生野

#### 自然、癒し

- ・聖地：世界遺産（吉野、高野、那智勝浦、本宮、新宮、かつらぎ、九度山、橋本、中辺路、田辺、上富田、海南、大淀、天川、十津川、大塔、野迫川、西吉野）  
（伊勢、大津、室生、永平寺）
- ・滝・清流：名張、箕面、丹波、加茂、笠置
- ・農村：宇治田原、千早赤阪、中
- ・その他：有馬、大原

もちろん以上のようなテーマは、最終的な事業ベースにおいては、より細分化していくことが必要である。

例えば「城」をテーマに、姫路、大阪、和歌山、安土、彦根などが「六都再見」のような連続イベントを実施することなどが考えられるし、兵庫県内の主な都市(尼崎、伊丹、洲本、篠山、明石、姫路、赤穂、出石)をそれぞれ性格が異なる城下町とし、紹介していくことも可能だろう。

「人物」や「和歌」など、文化をキーワードとして、従来にはなかった地域交流を進めることも可能になる。



六都再見スタディーツアー

さて、以上のような考え方は、もちろん「テーマルート」各地域の切り捨てを意味するものではない。

「歴史街道」の「奥行き部分」といえる地域においても、出石・篠山・長浜など、点としては歴史街道らしい街ができてきており、一方で、旅の関心は世界的にも地方都市や田園に移ってきている。

大切なのは、これらのそれぞれの街を個別にではなく、来訪者にとってより魅力的なコンセプトでつないでいくということである。

また、各府県の「テーマルート」地域が抱える地域ニーズや問題点は様々である。例えば、和歌山・三重・奈良では世界遺産指定への対応が、滋賀においては新幹線新駅の活用や3K施策(観光・環境・健康)とのリンクが、福井においては特に観光面における北陸3県内での差別化が、それぞれの課題の一つとなっている。

各府県との情報交換を密にし、これらの課題のいくつかに共に取り組んでいく体制を作りたい。

従来「飛鳥～奈良～京都」間などで実施されてきた実験的事業についても、府県境を越えるものを含め、多様な形で展開していきたい。

## テーマルート地域における事業例：紀伊半島

### 1. 歴史文化・観光・自然資源等の絞り込み

「吉野熊野歴史自然軸」を構成する主要資源、つまり、紀伊半島全体として意識し、アピールしていくべき資源についての絞り込みを行う。

### 2. 観光分野における連携方策

#### (1) 全体として取り組むもの

「世界文化遺産」への指定にあわせ実施可能な情報発信事業、中部国際空港・関西国際空港を活用した外客誘致事業等についての検討を行う。

#### (2) ゾーンとして取り組むもの

まちづくりやイベント、具体的な観光客受け入れについては、広大な紀伊半島全域を一つとしてとらえるには無理な点も多いため、ゾーニングにより、各エリア毎に特徴あるまちづくり、PRを実施していく。

### 3. 都市部との農林業等における連携方策

京阪神、中部圏などの都市部との交流促進等についての検討を行う。

### 4. 必要とされるまちづくり、基盤整備に関するとりまとめ

紀伊半島各地で参考にすべき先進事例を整理し、地域連携を進めていくうえで必要とされる整備についても再整理を行う。

### 5. 3県における横断的な体制作り

行政、民間、住民などの既存の取組みを活かし、垣根の越えた横断的な体制を元にして、紀伊半島が一体となった観光・広報PR、保全利活用、住民ネットワークなどの各分野ごとの情報を交流することを目的とする。



## 4 . 組織・体制づくり

### 組織運営

最も重要なテーマは、会員団体関係者の「参画」促進である。

スルツとKANSAI協議会で実現しているような「ワーキンググループ」方式を積極的に導入していく必要がある。

### スタッフ

事務局の充実が急務である。

活動10年にして、未だ派遣者が民間企業からのみである。官民のバランス的にも、協議会への構成自治体からの出向や人事交流等を検討していく時期にある。

### 資金

昨今の経済情勢下、会費収入頼りの協議会運営が次第に困難になっていくことは明白である。

活動やスタッフの確保には一定の資金が必要であり、調査研究、ツアー、イベントグッズ開発等の事業を通して、資金を獲得していく仕組みづくりが不可欠である。

### 対象地域数の問題

協議会の市町村数はすでに100を越えており、各府県の市町村数をしのぐ数になっている。今後、予算・人員規模の拡大が果たせないことも十分に想定される中、現状以上に市町村数が増え続けることは、協議会にとって、必ずしも望ましい方向性ではない。

協議会にとって適正な市町村数はどの程度なのか、改めて議論が必要である。

### その他の検討課題

- ・東アジアからのツアー受け入れ体制づくり（外部法人化・旅行業登録）
- ・東京事務所の設置

## 2005年までに、何をするべきか

### 1. 地域づくり

#### (1) 歴史街道モデル事業

- ・地域との連携を密にし、ともに考え協力しあえる体制づくり
- ・策定後のフォローアップ施策の充実と支援地域の重点化
- ・各府県の観光拠点となる地域におけるモデル事業への取組促進
- ・歴史文化資源の掘り起こしと演出による地域づくり

#### (2) 市民参加と地域間交流の推進

- ・「歴史街道倶楽部」の充実と活用
- ・「旅モニター制度」「ブレンチーム」「地域特派員」などによるまちづくりへの市民参加の促進と、地域間における人的交流の推進
- ・若者向けPRや教育機関との連携による若者対策
- ・「歴史街道物産倶楽部」の活用
- ・ワーキング制度の導入検討と研究会、交流会の充実
- ・コミュニティビジネス等、産業面の視点をふまえた調査研究の実施

#### (3) 地域整備を「点」から「線」へ

- ・「既存ルート」「古道、旧道」「河川」を活用したルートの形成
- ・「観光交流空間モデル事業」の積極的活用
- ・運輸機関との連携促進
- ・ボランティアによる定点案内の充実
- ・「町家ネットワーク」のメインルート全域への拡大・充実
- ・歴史的環境の保全・再生への積極的関わりとエコツーリズム、アグリツーリズム事業への取組

#### (4) 「面」としてのネットワーク事業

- ・博物館との連携による事業展開
- ・「歴史街道iセンター」におけるネットワークの強化と機能の充実
- ・相互PRによる宿泊施設との連携
- ・市町村共同事業の充実と推進
- ・具体的事業の実施による寺社との連携

## 2 . 広報 P R

### ( 1 ) 発信素材の整理

- ・従来の観光との違いを明確にし、わかりやすく魅力を伝えるための素材の整理
- ・モデルコースづくりと定着化
- ・「歴史街道 2 1 ブランド」等、地域の特産品や「人物」「芸能」などシリーズ性による魅力の付加
- ・マーケティングによる発信方法の検討

### ( 2 ) 国内への広報 P R

- ・ガイドブック、パンフレットの作成とあわせ、鉄道会社との連携によるポスター掲出、新聞への折込広告など「紙」媒体での R P の実施
- ・テレビ番組など、ソフトの蓄積と再活用の推進
- ・インターネットによる発信およびブロードバンド時代への対応
- ・シンポジウムや展示などによる一般の「人」への広報 P R の実施と、発信のキーマンとなる「人」とのネットワーク形成

### ( 3 ) 海外への広報 P R

- ・主要箇所へのパンフレット設置など、訪日外国人、留学生など在外日本人への P R の充実
- ・関連団体（スルッと KANSAI、J スル-カード<sup>®</sup>、航空会社、旅行会社、ホテル、ジャパ<sup>®</sup>ニーズ・イン、USJ、広域団体など）との連携した中国、米国を中心とした「フォーラム」など海外広報の実施
- ・国内他地域との連携や歴史文化をネットワークする海外諸団体との関係づくりの推進
- ・中国をターゲットとした広報 P R の実施と誘客
- ・各地のフィルムコミッションとの連携づくり
- ・国の国家予算との連携

## 3 . テーマルートの見直し

- ・ゾーン分けと情報の再編集によるテーマルートの見直し
- ・特定テーマに沿った連携の推進

## 4 . 組織・体制づくり

- ・ワーキンググループ方式の導入の検討
- ・事務局の充実
- ・事業資金確保のための仕組みづくり
- ・東アジアからのツアー受け入れ体制づくり（外部法人化・旅行業登録）
- ・東京事務所の設置